



大分大学総務部総務課広報係
870-1192 大分市大字旦野原 700
TEL:097-554-7376 FAX:097-554-7413
MAIL:koho@oita-u.ac.jp

PRESS RELEASE (2025/10/24)

県政記者クラブ各社 殿



国立大学法人大分大学

災害の教訓を伝承するフィールドツアー
令和7年度 減災シンポジウム in 杵築市
－持続可能な減災社会の実現に向けて（NIPPON 防災資産）－
（お知らせ）

本学では、高校生と大学生らによる杵築市を対象としたフィールドツアーを開催いたします。本ツアーは「大分県災害データアーカイブ」から得られた過去の情報をもとに、杵築市で発生した災害や地形的特性を理解し、災害の教訓をフィールドで感じ、学ぶことで災害を自分事として捉えることを目的としています。さらに多様な災害への備えや課題について考え、検証し、杵築市における災害多発時代に向けた防災や減災社会のあり方を議論し、次世代を担う若者から持続可能な減災社会の実現に向けた提言を1月のシンポジウムで発表いたします。

※本ツアーは災害の教訓を伝承する活動として「NIPPON 防災資産」に認定されています。

報道各社におかれましては、取材につきましてご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 日 時 : 令和7年11月15日(土)9:00～16:00
2. 場 所 : 杵築市内
3. 内 容 : 災害の教訓を伝承するフィールドツアー
※詳細については別紙をご参照ください。

※取材申込について

取材にお越しくださる場合は、11月13日（木）までに下記問合せ先へご連絡ください。

（問合せ先）

大分大学減災・復興デザイン教育研究センター 杉田 智美
TEL:097-554-7333 Email: cerd-office@oita-u.ac.jp



災害の教訓を伝承するフィールドツアー

令和 7 年度 減災シンポジウム in 杵築市

－持続可能な減災社会の実現に向けて（NIPPON 防災資産）－

日 時：令和 7 年 1 1 月 1 5 日（土） 9 時 00 分～16 時 00 分

場 所：杵築市内

主 催：国立大学法人 大分大学，杵築市

共 催：大分県，気象庁大分地方気象台，国土地理院九州地方測量部

協 力：県立杵築高等学校，NPO 法人リエラ

目 的：

気候変動の影響により日本各地で自然災害が多発化し、その被害は激甚化とともに多様化の様相を呈している。杵築市では昭和 51 年 9 月台風第 17 号による土砂災害、平成 9 年台風第 16 号による河川氾濫など過去に人的被害を含む甚大な災害が発生している。近年でも平成 30 年 7 月豪雨による道路陥没事故や令和 6 年 8 月台風第 10 号により被害が頻発化している。令和 6 年能登半島地震では地理的な要因により支援や復旧の遅れが生じ、災害支援の課題を残すこととなった。別府湾を震源とした地震、南海トラフ巨大地震など迫りくる大規模災害に対し、次世代を担う若者世代は、この災害多発時代を乗り越えていかなければならない。

そこで令和 8 年 1 月 25 日に杵築市で開催される減災シンポジウムに合わせ、高校生と大学生らによる同市を対象としたフィールドツアーを開催する。このツアーでは「大分県災害データアーカイブ」から得られた過去の情報をもとに、過去に杵築市で発生した災害や地形的特性を理解し、災害の教訓をフィールドで感じ、学ぶことで災害を自分事として捉えることを目的とする。さらに多様な災害への備えや課題について考え、検証し、杵築市における災害多発時代に向けた防災や減災社会のあり方を議論し、次世代を担う若者から持続可能な減災社会の実現に向けた提言を行う。

※本ツアーは災害の教訓を伝承する活動として「NIPPON 防災資産」に認定されています。

1. フィールドツアー主な個所

- ① <災害からの教訓> 土砂災害（山香町南畑上河内） 昭和 51 年 9 月台風第 17 号
<https://archive.cerd-edison.com/slope/00857006/>
解説：語り部，気象台
- ② <災害からの教訓> 災害復興記念碑（山香庁舎） 昭和 51 年 9 月台風第 17 号
<https://archive.cerd-edison.com/monument/00857038/>
解説：杵築市，国土地理院
- ③ <災害からの教訓> 千光寺 八坂川の氾濫（杵築市本庄）
<https://archive.cerd-edison.com/typhoon/01064000/>
解説：語り部，国土地理院，県土木，杵築市
- ④ <地震・津波災害への備え> 奈多海岸（杵築市奈多）中央構造線断層帯 周防灘断層帯
<https://archive.cerd-edison.com/quake/00028000/>
解説：気象台，杵築市，大分県防災局

2. スケジュール 11月15日（土）

8:50	杵築高等学校集合	高校生，大分県防災局，大分地方気象台，国土地理院，杵築市，CERD，リエラ
9:00	出発	
9:35	山香庁舎 小型バスに乗り換え出発	バス：市3台（30名），乗用車に分乗
10:00	①山香町南畑上河内 ＜災害からの教訓＞ 土砂災害 昭和51年9月台風第17号	説明： ・語り部 ・気象台（当時の気象状況について） 補足説明：CERD
10:40	出発	
11:00	②山香庁舎 ＜災害からの教訓＞ 災害復興記念碑 昭和51年9月台風第17号	説明： ・杵築市長 ・国土地理院（自然災害伝承碑について） 補足説明：CERD
11:30	昼食（山香庁舎）	
12:30	出発	
13:00	③千光寺（杵築市本庄） ＜災害からの教訓＞ 八坂川の氾濫 ドローン映像	説明： ・語り部 ・国土地理院（水衝部地形について） ・県土木事務所（八坂川改修について） ・杵築市（平成9年台風時の対応について） 補足説明：CERD
14:00	出発	
14:40	④奈多海岸（杵築市奈多） ＜地震・津波災害への備え＞ 慶長豊後地震 中央構造線断層帯 周防灘断層帯	説明： ・気象台（地震・津波について） ・杵築市（ハザードマップと市内災害想定） ・大分県防災局（想定される県内の大規模災害） 補足説明：CERD
15:30	出発	
16:00	杵築高等学校 解散	

3. 委託先

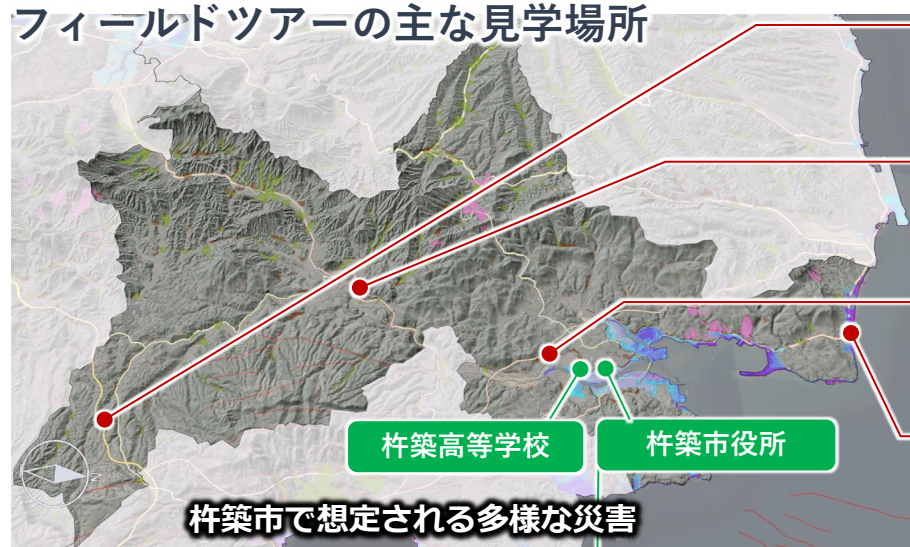
本事業（減災シンポジウム及びフィールドツアー（ワークショップ含む））では，以下の団体にコーディネータ委託業務を大分大学減災センターより発注しています。

○特定非営利活動法人リエラ（日田市）

代表 松永鎌矢様

※主に災害支援事業や防災・災害ボランティアに関する事業を行うNPOです。

フィールドツアーの主な見学場所



①災害からの教訓：山香町南畑上河内
(昭和51年9月台風第17号土砂災害)

解説：国土地理院九州地方測量部、気象台、語り部

②災害からの教訓：災害復興記念碑(山香庁舎)
(昭和51年9月台風第17号土砂災害)

解説：国土地理院九州地方測量部、気象台、語り部

③八坂川改修と災害への備え：千光寺(平成9年台風第19号)

解説：国土地理院九州地方測量部、大分県土木事務所、語り部、
CERD(ドローンによる八坂川周辺の地形特性の観察)

④地震津波災害への備え：八幡奈多宮
(文禄5年閏7月慶長豊後地震)

解説：杵築市、大分県防災局、大分地方気象台、
国土地理院九州地方測量部

大分県の災害リスク



日 時：令和6年11月15日(土)

主 催：国立大学法人 大分大学、杵築市

共 催：大分県、気象庁大分地方気象台、国土地理院九州地方測量部

協 力：杵築高等学校、NPO法人リエラ

(目的) 気候変動の影響により日本各地で自然災害が多発化し、その被害は激甚化とともに多様化の様相を呈している。杵築市では昭和51年9月台風第17号による土砂災害、平成9年台風第16号による河川氾濫など過去に人的被害を含む甚大な災害が発生している。近年でも平成30年7月豪雨による道路陥没事故や令和6年8月台風第10号により被害が頻発化している。令和6年能登半島地震では地理的な要因により支援や復旧の遅れが生じ、災害支援の課題を残すこととなった。別府湾を震源とした地震、南海トラフ巨大地震など迫りくる大規模災害に対し、次世代を担う若者世代は、この災害多発時代を乗り越えていかなければならない。

そこで令和8年1月25日に杵築市で開催される減災シンポジウムに合わせ、高校生と大学生らによる同市を対象としたフィールドツアーを開催する。このツアーでは「大分県災害データアーカイブ」から得られた過去の情報をもとに、過去に杵築市で発生した災害や地形的特性を理解し、災害の教訓をフィールドで感じ、学ぶことで災害を自分事として捉えることを目的とする。さらに多様な災害への備えや課題について考え、検証し、杵築市における災害多発時代に向けた防災や減災社会のあり方を議論し、次世代を担う若者から持続可能な減災社会の実現に向けた提言を行う。

※本ツアーは災害の教訓を伝承する活動として「NIPPON防災資産」に認定されています。

昭和二十一年九月廿日夕山音町は有史以来の豪雨
台風十七号に襲われた

降雨量	降雨量
最大時間雨量	一五・五ミリ
一日雨量	一五・六ミリ

被害は死者四人、河川の氾濫道路交通通信の途絶
人家の孤立漂流失水による一人畜果作物肥料等の
被害総額二六億円、町議会、町民はこれに復旧に
全精力を傾注、爾來二年間、町民はこれに復旧に
をみる要した公共事業復旧事業費約二億円、
尊い犠牲者の鎮魂と町議会による町民の復興
努力、国県の救援助と町議会による関係機関の勞
務に感謝し、後世にふたたび大災害を蒙るのをい
よう祈念して、この災害の記念碑を建立す

昭和五十四年九月十日
山音町長渡辺政男

②杵築市役所山香庁舎

吊いと感謝
災害の教訓
後世へ願い

自然災害伝承碑



過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄（災害の様相や被害の状況など）が記載されている石碑やモニュメント。

①山香町南
畑上河内

①

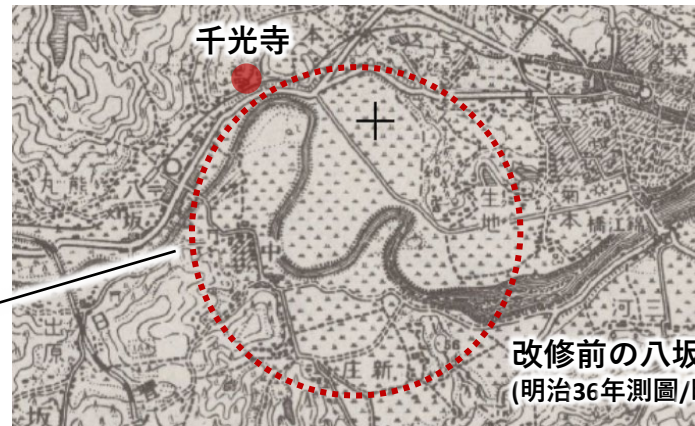
大分県災害データアーカイブ

1976(昭和51)年9月10日 台風17号
速見郡山香町南畑上河内

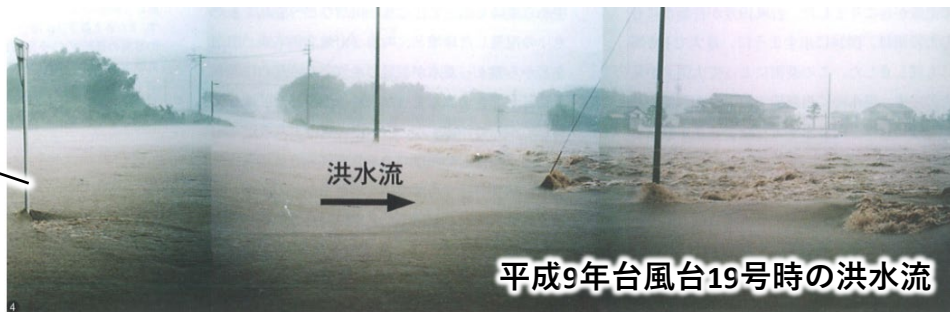
住宅の裏山が高さ20メートル、幅10メートルにわたって崩れ一家6人が生き埋めになった。地元消防団などが救助にあたり、2人は助け出したものの、この家に住む40代の男性、30代の女性、中学1年生の男子生徒、小学4年生の男子生徒が死亡した。

集落は浸水などで通行不能になっていたため、救急車が現場に行けず救急活動が思うようにできなかったという。

③八坂川改修と災害への備え：平成9年台風第19号



改修前の八坂川の形状
(明治36年測圖/昭和2年要部修正測圖)



平成9年台風台19号時の洪水流

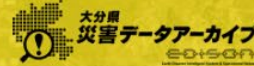
八坂川は、下流部の本庄・中地区で大きく蛇行し、川幅も狭いことから、洪水のたびに氾濫を起こした。宝永12年8月大風雨の記録には、千光寺の石段3段目まで浸水したこと、八坂川沿岸の住民が山手の方に移転したことが残されている。

平成9年台風19号では、農地のみならず人家にも及ぶ浸水被害が発生した。

八坂川では、昭和36年10月集中豪雨の被害を受け河川改修が進められ、平成7～13年にかけて蛇行部の流れを直線化する捷水路の開削と周辺農地の整備が行われ、現在の河川の形状が完成した。捷水路整備後は、大きな水害は発生していない。

八坂川の災害と改修の歴史を伝え、河川と人の暮らしの関係を考えることができる。

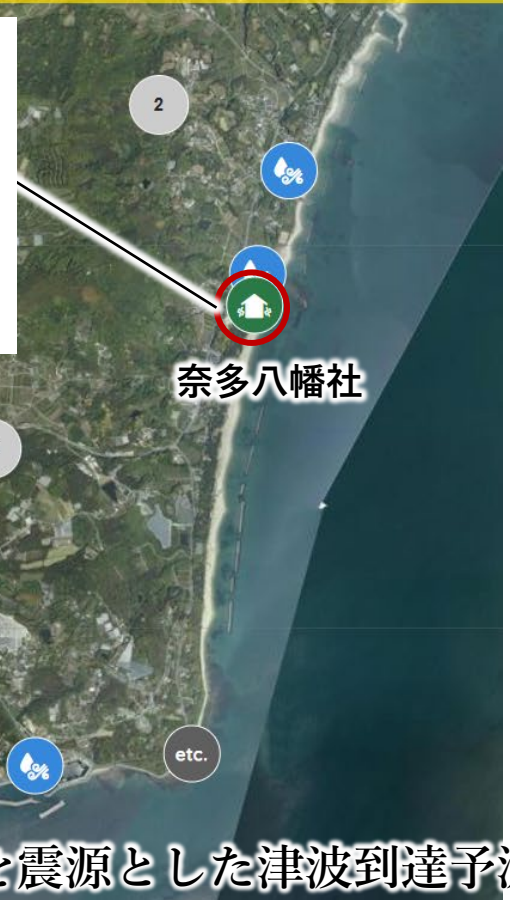
④地震津波災害への備え：大分県で想定される大規模地震



慶長豊後地震の記録

慶長元(1596)年7月12日に、別府湾(日出生断層帯)を震源とする大地震が発生、別府湾沿岸に津波が襲来し、沿岸地域に大きな被害をもたらした。

杵築周辺では、納屋御堂の土地が数十町が陥没したこと、八幡奈多宮の本社・拝殿・楼門や鳥居が流出したなど、多くの被災の記録が残されている。八幡奈多社の津波高は、都司他(2012)によると、7~8m、また松崎他(2016)によると、4~5メートルと推定されている。



奈多八幡社

杵築市津波対策基準

地震発生直後にできるだけ早く標高 8 m 以上の高台に逃げる

【八幡奈多宮】

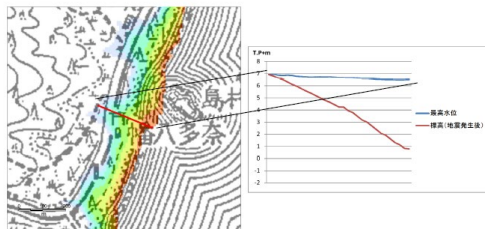


図 1-20 津波遡上結果(八幡奈多宮)

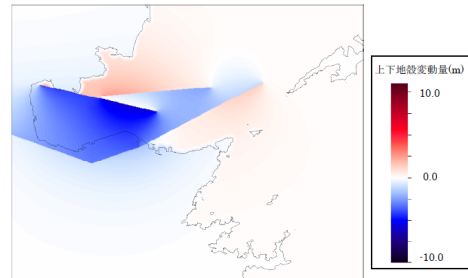


図 1-15 上下地殻変動分布

別府湾を震源とした津波到達予測

地点	+20cm 波高到達時間	+1m 波高到達時間	最大津波 波高到達時間	津波高 最大津波高-初期潮位 T.P.
奈多	11分	15分	18分	4.28m T.P. 3.08m
守江字灘手	13分	18分	20分	3.28m T.P. 2.08m
八坂川河口	12分	23分	1時間21分	3.09m T.P. 1.89m

慶長豊後地震による八幡奈多宮の津波高を再現し、大分県津波浸水想定(別府湾を震源とした津波)(H25)を求めた。

別府湾を震源とする地震では歴史古文書を再現し、地殻変動(大分市・別府市沿岸部が沈降)を想定。